

# 車いすシミュレーション体験の違いが大学生の意識に与える影響について

## —道徳教材「車いすの少年」を通して—

○今井まどか  
(新潟県立月ヶ丘特別支援学校)  
KEY WORDS: 障害理解教育

有川宏幸  
(新潟大学教育学部)  
道徳教材 車いす体験

### I. 問題と目的

道徳教材「車いすの少年」は、「街の中で困っている障害者に手を貸すべきかどうか」をテーマとした読み物教材である。本研究では、「車いすの少年」の内容と同様に車いすの車輪が溝にはまって前に進めなくなる場面を実際に体験することによって、「車いすの少年」に対する読み方がどのように変化するかを調査する。

### II. 研究1 「車いすの少年」に対する大学生の評価

#### 1. 調査内容

質問紙作成のため、A大学の学生33名に「車いすの少年」を読んでどのように考えたか回答する自由記述式のアンケートを行った。この結果をもとにKJ法を用いて16の質問項目で構成された調査用紙を作成した。

作成した調査用紙をA大学の学生200名に配布し5件法による回答を求めた。回収した調査用紙から欠損値のあったものを除き、最終的に179名の回答結果について分析した。

#### 3. 結果

天井効果の見られた4項目を除いた12の質問項目の因子構造を検討するため、最尤法を用いてプロマックス回転を行った。因子パターンが0.35以下の1項目を分析から取り除き、再度回転を行ったところ、3つの因子が抽出された。これらを「車いすの少年」に対する意識を測定する尺度とした(Table)。

### III. 研究2 車いすシミュレーション体験による意識変容

#### 1. 調査内容

実験の手続きは、「車いすの少年」を読んで質問紙に回答し、その後車いす体験を行い、体験後再び「車いすの少年」を読んで質問紙に回答してもらうというものを設定した。

「車いすの少年」の内容をもとに、車いす体験中の周囲の

傍観者のかかわり方を以下の3つの条件に分け、被験者であるA大学の学生40名を振り分けた。(条件1:11名 条件2:14名 条件3:15名)

条件1)「即援助条件」車いすが溝にはまった瞬間に傍観者は被験者のそばに行き、溝から出るのを手助けした。

条件2)「声を掛ける条件」車いすが溝にはまってから10秒後に傍観者は被験者に声をかけ、返事を確認し手助けした。

条件3)「何もせず見守る条件」車いすが溝にはまっても傍観者は何もせず、50秒経ってから手助けした。

#### 2. 結果

(1)各条件における、車いす体験前後の各尺度得点の平均値「即援助条件」では体験後の「意思確認」尺度得点の平均値が有意に高かった( $t=-3.0735$ ,  $df=10$ ,  $p<0.05$ )。「状況確認」尺度得点の平均値についても体験後の方が有意に高かった( $t=-4.11327$ ,  $df=10$ ,  $p<0.05$ )。

「声を掛ける条件」では体験後の「意思確認」尺度得点の平均値が有意に高かった( $t=-0.8217$ ,  $df=14$ ,  $p<0.05$ )。

「状況確認」尺度得点の平均値についても体験後の方が有意に高かった( $t=-2.56676$ ,  $df=14$ ,  $p<0.05$ )。

「何もせず見守る条件」ではどの尺度においても体験前後の各尺度得点の平均値の差に有意な差は見出せなかった。

(2)車いす体験前後での個人の各尺度得点の変化の分布

#### ①「積極的援助」尺度について

3つのどの条件においても、車いす体験の前後で尺度得点が上がった者と下がった者の比が約1:1であった。

#### ②「意思確認」尺度について

「即援助条件」、「声を掛ける条件」では、車いす体験前後で尺度得点が上がった者がともに約70%であった。「何もせず見守る条件」では、尺度得点が上がった者が約50%、下がった者が約30%、変化のなかった者が約20%であった。

#### ③「状況判断」尺度について

「即援助条件」、「声を掛ける条件」では、車いす体験前後で尺度得点が上がった者が70%以上であった。「何もせず見守る条件」では尺度得点が上がった者が50%、下がった者が約36%、変化のなかった者が約14%であった。

### IV. 考察

「車いすの少年」はこれまでの研究により障害理解教育において不適切な教材とされていたが、体験学習との組み合わせによっては「援助を受ける相手への意思確認」についての意識を向上させることができることが今回の研究により示唆された。体験法によっては多様な意識のばらつきが示唆されたことから、教材そのものの良し悪しだけではなく教材をどのように活かしていくかが重要であると考察する。

(IMAI Madoka, ARIKAWA Hiroyuki)

Table 「車いすの少年」を読んでどのように考えたか

質問項目	因子1	因子2	因子3
<b>第1因子:積極的援助</b>			
もしあなたがこの文章の登場人物であれば、筆者と同じように車いすの少年を手助けする。	.918	.035	-.051
もしあなたが、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、車いすの少年を手助けする。	.778	.146	.053
もしあなたが、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、車いすの少年を手助けする。	.770	-.010	-.014
もしあなたが車いすの少年の手助けで、車いすの少年の車輪が溝にはまらないうちに、周囲の人に助けを求めたい。	.518	-.251	.200
<b>第2因子:意思確認</b>			
この文章の筆者は、手助けする前、車いすの少年の意思を確認することを怠らな。	-.031	.760	-.108
もしあなたが、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、車いすの少年の手助けする前、車いすの少年の意思を確認する。	-.064	.627	.049
もしあなたが車いすの少年の手助けで、車いすの少年の車輪が溝にはまらないうちに、周囲の人に助けを求めたい。	.008	.501	.197
<b>第3因子:状況判断</b>			
この文章の筆者は、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、他の登場人物に助けを求めたい。	.114	-.116	.549
もしあなたが、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、車いすの少年の手助けする前、車いすの少年の意思を確認する。	-.141	.049	.530
もしあなたが車いすの少年の手助けで、車いすの少年の車輪が溝にはまらないうちに、周囲の人に助けを求めたい。	.115	.123	.473
もしあなたが、車いすの少年の車輪が溝にはまってしまったら、車いすの少年の手助けする前、車いすの少年の意思を確認する。	-.026	.297	.435

因子抽出法:最尤法 回転方法:kaiserの正規化を伴うプロマックス回転